



図 2 対応粒界の巨視的方向が対応格子点密度の高い面からずれている場合に生ずる粒界階段または粒界のジグザグ形状

後続する速報参照) 粒界階段は図 2 で示すように粒界面が対応格子点 (図の黒丸) 密度の高い面からとなりの面へ移動するときにも生ずるが、写真 4 では対応格子点をプロットしてみるとくいちがいが生じていることがわかる。したがってこれは別種の粒界階段であり後続の速報で説明するように粒界転位に付随したものである。粒界に転位がはいっているのであるから写真 4 の結晶全体に歪がはいっている。
(1970 年 2 月 25 日受理)

文 献

- 1) W. L. Bragg, J. F. Nye; Proc. Roy. Soc. A **190**, 474, (1947)
- 2) E. Fukushima, A. Ookawa; J. Phys. Soc. Japan **8**, 609, (1953), **9**, 44 (1954), **12**, 139, (1957)
- 3) W. M. Lomer; Proc. Roy. Soc. A **196**, 182, (1949)
- 4) Y. Ishida, T. Hasegawa, F. Nagata; J. Appl. Phys. **40**, 2182, (1969)
- 5) 石田; 日本金属学会誌 **33**, 1129, (1969)

正 誤 表 (3 月号)

ページ	段	行	種 別	正	誤
3	右	上 2	本文	α -炭素	α -炭素上
"	"	下 5	"	ニトロンの場合には	ニトロンの場
"	"	下 3	"	合には をとる	
7	左	下 1	"	木炭	本炭
"	右	上 3	"	木炭	本炭
25	"	下 1	"	図 5 $\bar{\omega}_n$ を $\bar{\omega}_n$	図 5 $\bar{\omega}_n$ を $\downarrow\omega_n$
表 3			筆者紹介	小嶋英一 () 元大学院生	小嶋英一 () 研究員

正 誤 表 (4 月号)

ページ	段	行	種 別	正	誤
10	左	下 7	本文	the 2 nd	2 nd
"	"	下 2	式	$z_b(t) = \int_0^t \bar{h}_b(t-\tau) [-\alpha_r(\tau)] d\tau$	$z_b(t) = \int_0^t \bar{h}_b(t-\tau) [-\alpha_r(t)] d\tau$
12	"	下 6	本文	numerical	nmerical
20	右	上 7	"	2.70	2.3
21	"		図 4 (b)	<chem>ClCH2CH2CCl2CH2CH2Cl</chem>	<chem>COCH2CH2CCl2CH2CH2Cl</chem>
37	左	上 14	本文	鈴木・鈴島のモデルを	鈴木・鮫島のモデルを